

第229回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成29年6月19日(月) 11:00~12:00

2 開催場所 宇都宮グランドホテル

3 委員の出席 委員総数 6人
出席委員数 5人

(1) 出席委員の氏名 片山 貴之 (委員長)
青木 敬信
早川 富美子
篠田 裕次
小笠原 伸

(2) 欠席委員の氏名 君島 理恵 (副委員長)

(3) 放送事業者側出席者 関根 房三 (代表取締役社長)
床井 和夫 (業務推進本部副本部長)
佐藤 望 (放送部長)
古寺 雄史 (総務部課長)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

5月28日(月曜日)に放送した「栃木プライド、ベトナムへ!~地方からの挑戦」について試聴と意見交換をおこなった。

事業者

これは、朝のワイド番組 B-UP 内のコーナー「栃木から世界へジャンプ!」の特別編として、ベトナムに進出した企業にスポットをあてて、オフィスや工場にお邪魔して日本人駐在員、ベトナム人たちにインタビューをおこないました。

【 番 組 の 試 聴 】

委員：

冒頭部分で、番組のインデックスを一通り挙げてから、その後の本編で細かく紹介していく構成は分かりやすかった。

事業者：

県内企業の海外進出を応援する朝ワイドのコーナーを再度、特別番組用に編集し直して、今回の特番を制作した。

委員：

ベトナムにスポットを当てた番組なのに、鹿島田アナが話を聞いた留学生3人中の2人が中国からの留学生だったことには、違和感がある。やはり、ベトナムからの留学生に絞って、より深く取り上げるべきだったのではないか。

また、その3人への「なぜ日本語を学んでいるか？」という質問は、番組全体のテーマから考えると、的外れだったように感じられた。

委員：

鹿島田アナのインタビューは、全体的に質問が棒読みで、そのスピードも速かった。

ベトナムでの、日本語が話せる現地の人にもインタビューしていたが、果たして質問の内容を理解出来ていたのか疑問に思えた。また、質問に対して返ってきた現地の方の日本語が不明解でも、鹿島田アナは内容をフォローすることなく、次の質問を投げかけていた。

形式的にインタビューをこなすのではなく、その質問と答えがスムーズにリスナーに伝わっているのか十分に配慮してほしい。

委員：

この番組では、華々しく海外展開をも果たした地元企業の紹介と、その応援に内容が限られていて、海外展開する中で抱えてきた諸問題など、その影の部分にはあまり触れられていない点が残念だ。海外進出の成功談ばかりではなく、もっと多角的に掘り込んでほしかった。

委員：

エンディングでの、“栃木プライド”へのまとめ方は、やや強引ではないか？

また、そのまとめの中でも強く断言していたが、そもそも、企業がこぞって海外に進出することが、“栃木”全体の利益になっているのかについては疑問がある。やや腑に落ちないところで終わってしまった感がある。

委員：

ヘッドハンティング防止を主たる理由にして工場を郊外に立地したことや、マーケティング戦略を全く練らずにカレーパンをヒットさせた話は、やや誇張が入っているように感じた。

委員：

栃木の企業の、海外進出の取り組みについて紹介する番組の企画・立案については、一定の評価をしたい。今後、ベトナム以外の国をテーマにした続編にも期待したい。

また、地域ブランドはどの県もほぼ同様の商品をアピールしている側面があるが、他県には無い“栃木”ならではの“の魅力を発信し、真の“栃木プライド”に結びついた

具体的な取り組みを続編では紹介してほしい。

(以上)

(2) その他
なし

(3) 次回開催日程について
次回の開催を7月10日(月)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日
なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日
(1) 放送 6月25日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内
(2) 書面 本社事務所に備え置き
(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項
なし